

(6月6日教育再生実行会議配付資料)

中央教育審議会高大接続特別部会の 審議状況等について

平成25年6月6日(木)

文部科学省中央教育審議会
高大接続特別部会 部会長

安西 祐一郎

高大接続特別部会について

これまでの主な審議事項 (第1回～第7回)

- 諸外国の動向や高等学校教育の取組みを踏まえた大学入学者選抜のありかた
- これからの時代に求められる能力の育成と評価のありかた
- AO入試・推薦入試のありかた
- 外部試験の活用のありかた
- 高等学校段階の学力状況の客観的な把握の仕組みの構築等、高等学校教育の質保証のありかた
- 入学志願者の多様な能力・適性等の評価のありかた

委員

19名

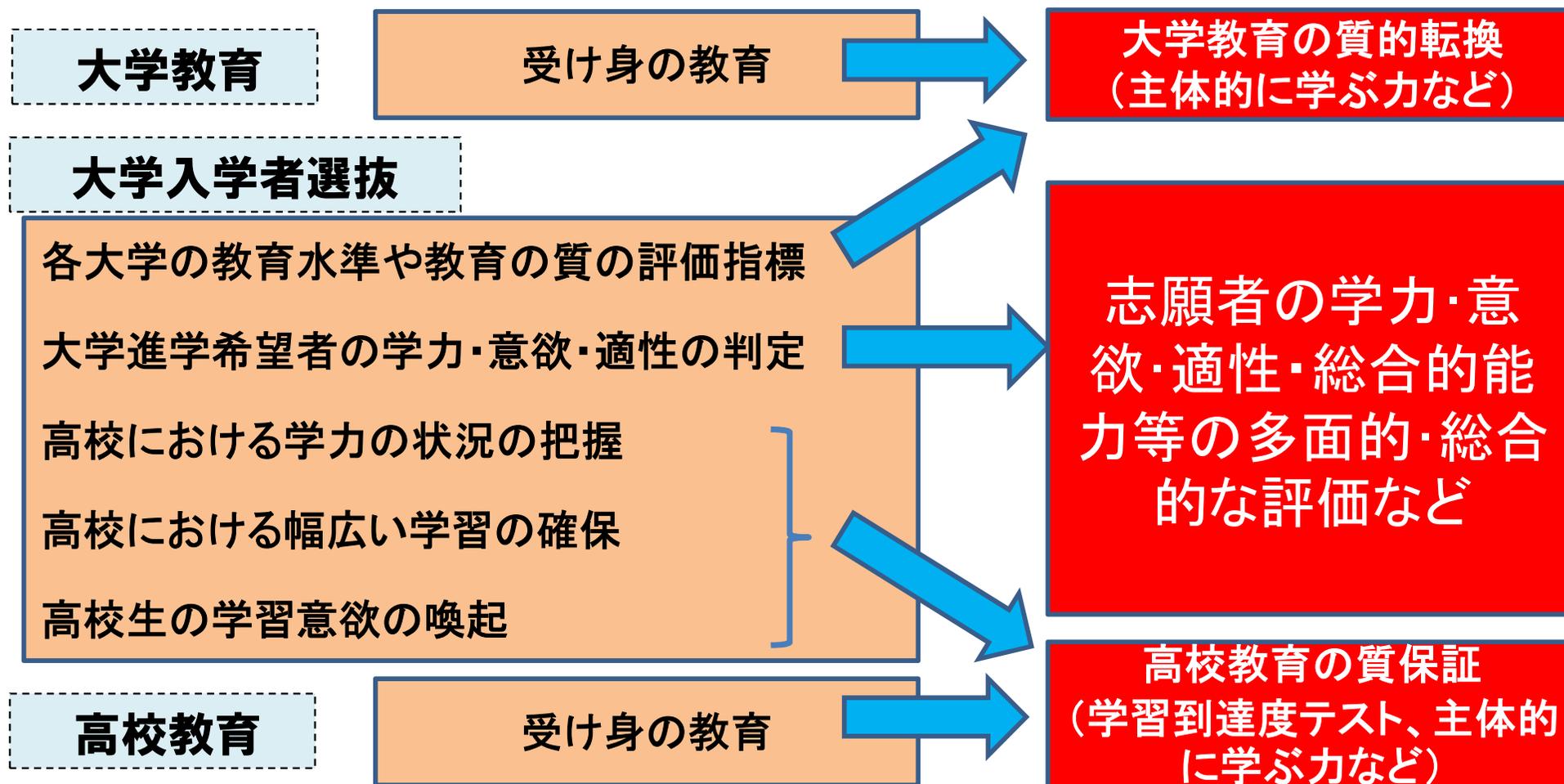
- (敬称略)
◎部会長、○副部会長
- 相川 順子 (一般社団法人全国高等学校PTA連合会会長)
 - 荒瀬 克己 (京都市教育委員会教育企画監)
 - ◎安西祐一郎 (独立行政法人日本学術振興会理事長)
 - 生重 幸恵 (特定非営利活動法人
スクール・アドバイザー・ネットワーク理事長)
 - 浦野 光人 (株式会社ニレイ代表取締役会長、
公益社団法人経済同友会幹事、
公益財団法人産業教育振興中央会理事長)
 - 及川 良一 (東京都立三田高等学校長、
全国高等学校長協会会長)
 - 勝 悦子 (明治大学副学長)
 - 金子 元久 (筑波大学大学研究センター教授)
 - 小林 浩 (リクルート進学総研所長、
カレッジマネジメント編集長)
 - 近藤 倫明 (北九州市立大学長)
 - 櫻井よしこ (ジャーナリスト、
公益財団法人国家基本問題研究所理事長)
 - 田邊 恒美 (山口県教育委員会教育長)
 - 垂水 共之 (岡山大学名誉教授)
 - 土井 真一 (京都大学大学院法学研究科教授)
 - 濱口 道成 (名古屋大学総長)
 - 濱名 篤 (関西国際大学長、学校法人濱名学院理事長)
 - 無藤 隆 (白梅学園大学子ども学研究科長)
 - 山本 繁 (特定非営利活動法人NEWVERY理事長)
 - 吉田 晋 (学校法人富士見丘学園理事長、
富士見丘中学校高等学校校長、
日本私立中学高等学校連合会会長)

高校教育⇔大学入学者選抜⇔大学教育

- これからの時代に必要な力
 - ・生涯を通じ不断に主体的に学び考える力、
 - ・予想外の事態を自らの力で乗り越えることのできる力、
 - ・グローバル化に対応し活力ある社会づくりに貢献することのできる力 等

○これらの力を育むには：各教育段階での教育目標と教育段階相互の関係づけが大切

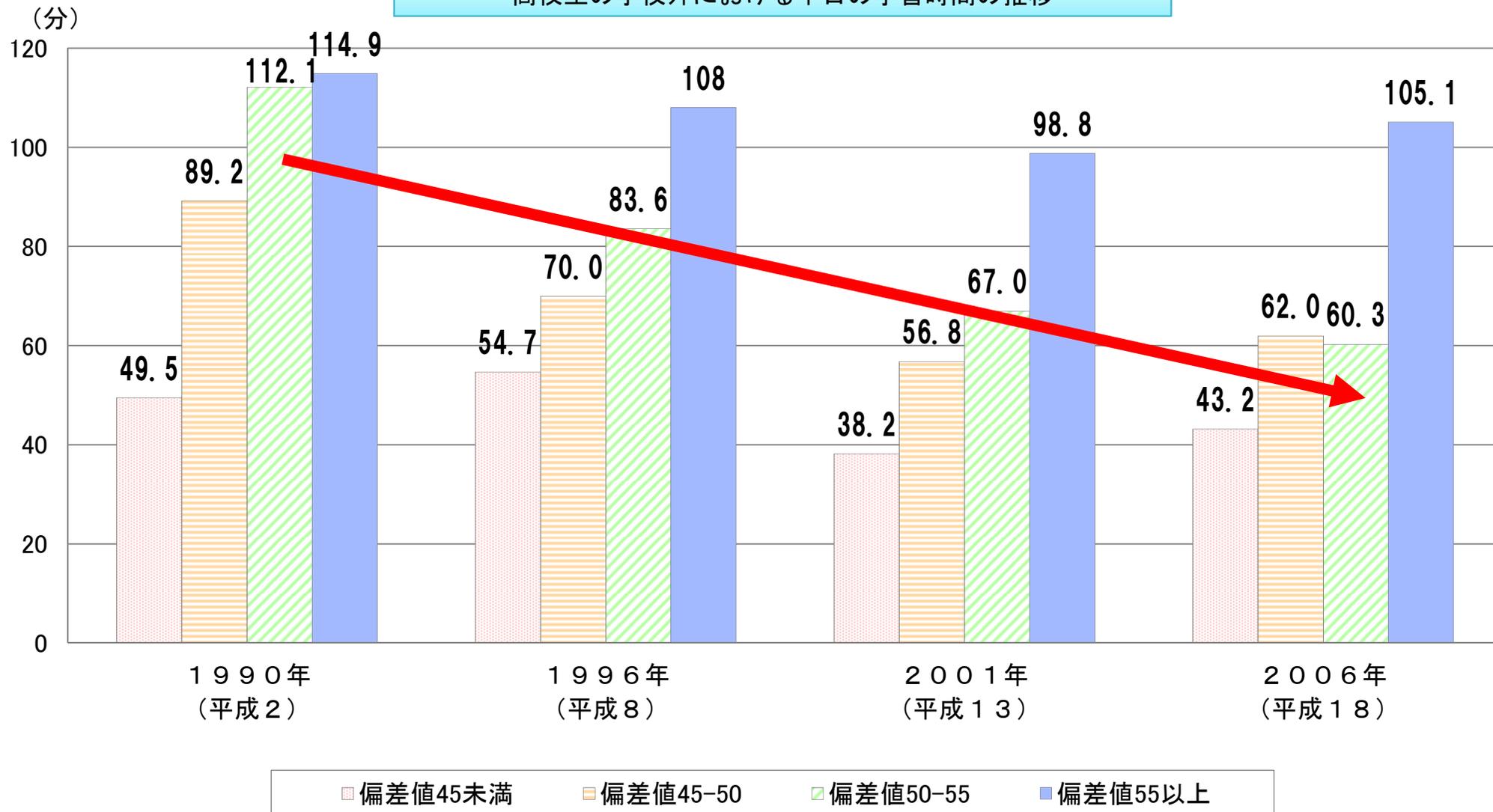
○各学校段階が教育目標を持ち、目標達成



高校における学習時間の減少 原因は？

○ ボリュームゾーンである中間層の勉強時間が大きく減少している。

高校生の学校外における平日の学習時間の推移



(注) 学習時間には、学習塾や予備校、家庭教師との学習時間を含む

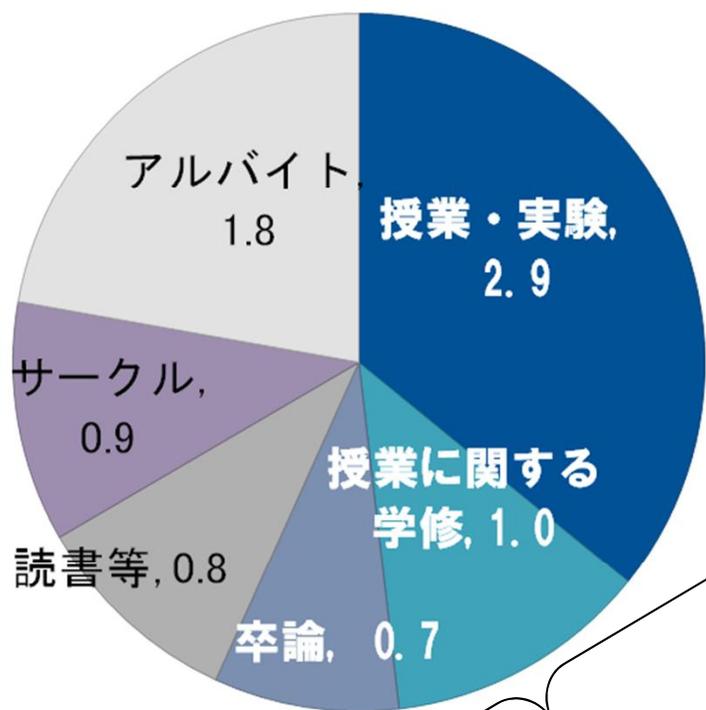
【調査概要】 高校2年生（普通科）4,464人を対象に、全国4地域（東京・東北・四国・九州地方の都市部と郡部）で実施。

（出典）Benesse教育研究開発センター「第4回学習基本調査」

大学における学修時間の少なさ 原因は？

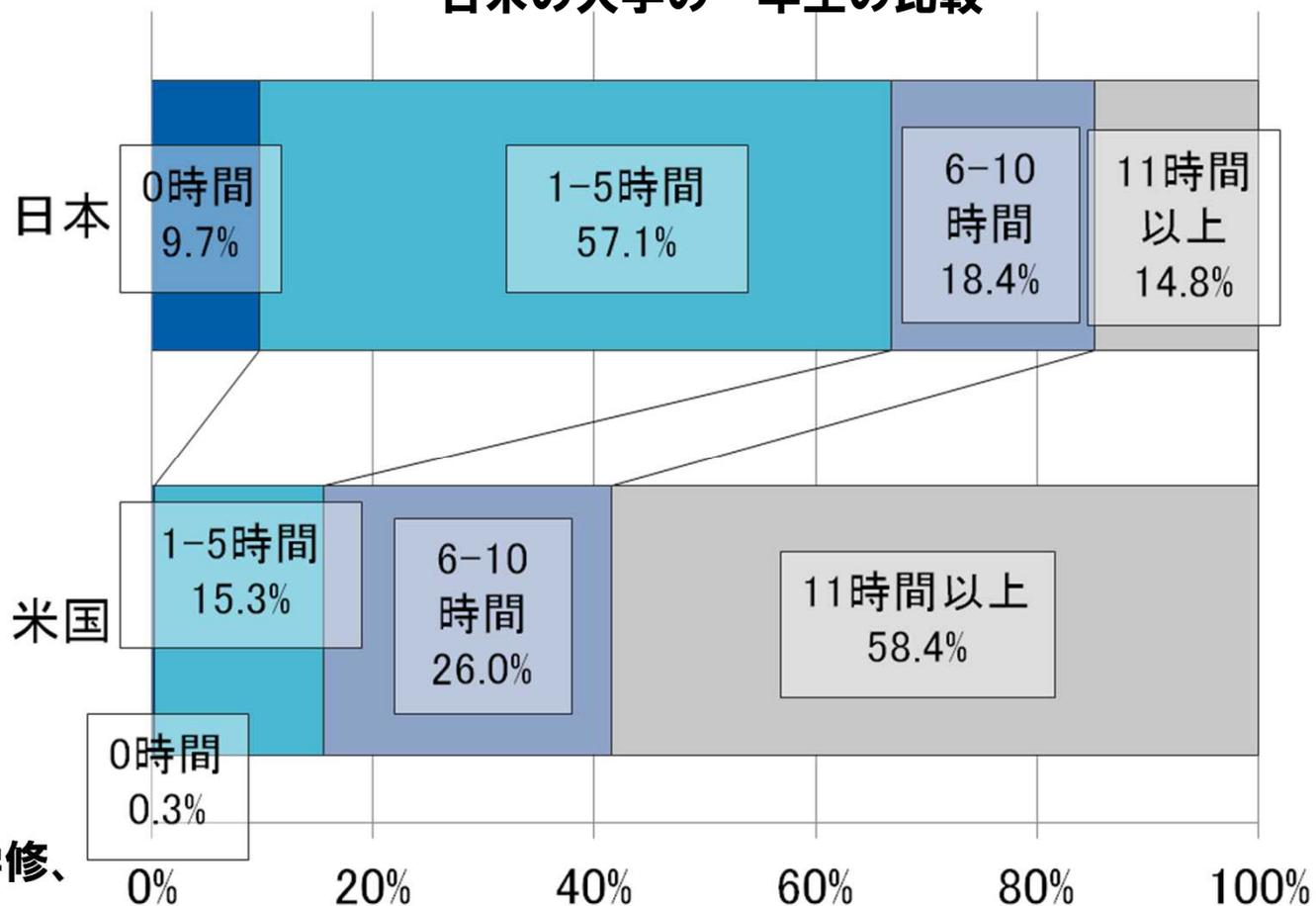
我が国の学生の学修時間は、例えばアメリカの大学生と比較しても少ない。

学生の一日の活動時間の分布
(計 8.2時間)



授業、
授業関連の学修、
卒論
4.6時間

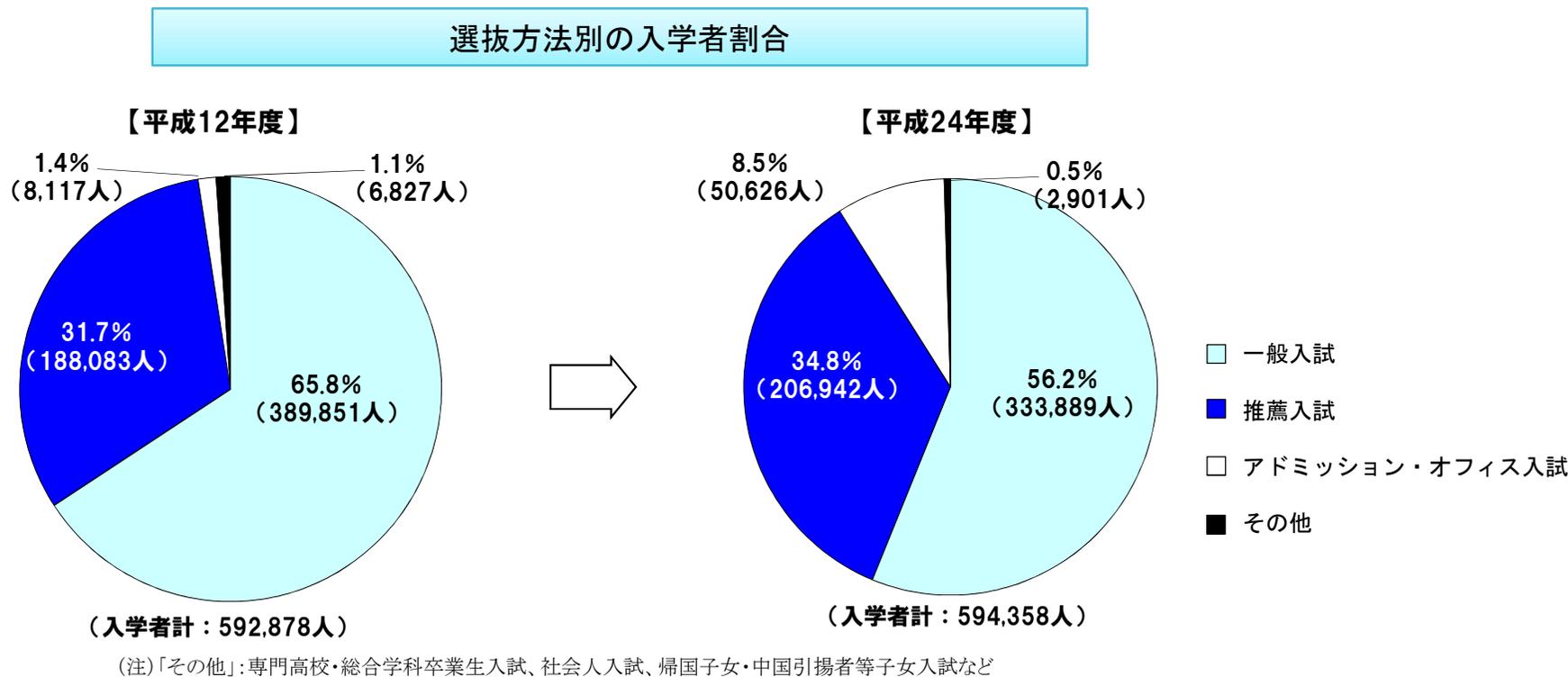
授業に関連する学修の時間 (1週間当たり)
日米の大学の一年生の比較



出典：東京大学 大学経営政策研究センター (CRUMP) 『全国大学生調査』2007年、
サンプル数44、905人 <http://ump.p.u-tokyo.ac.jp/crump/>
NSSE (The National Survey of Student Engagement)

大学入学者選抜方法の課題

推薦・AO入試が事実上の学力不問となるなど、本来の趣旨と異なった運用になっている例がみられる。



グローバルに活躍する人材やイノベーション人材を育成する観点から、学力検査偏重の選抜ではなく、より多様な面を評価する必要がある。

大学入試センター試験については、高校教育課程の弾力化への対応により、出題教科・科目が増加するなど、限界と言われるほど複雑化している。

高大接続を考える上で大切な点

- 「高大接続」は「大学入学者選抜」だけの問題ではない。高校までの教育、大学入学者選抜、大学教育を一体としてとらえ、各段階の目標をしっかりと持つこと。
- 「大学入学者選抜」についても、ペーパーによる学力試験だけでなく、意欲、適性、総合的能力等を多面的・総合的に評価にするためにどのような選抜方法が望ましいかを考えること。
- 評価手法について、パフォーマンス評価など近年の認知科学・学習科学の研究成果やICT技術の活用、様々な先導的取組などを踏まえて多面的に考えることが必要。

高大接続特別部会（第1回～第7回） における議論の方向性

- 高等学校までの学校段階で、児童生徒の状況に応じ、学習意欲を喚起し、幅広い学びを確保するとともに、学力の状況の把握など高校教育の質保証のための取組を充実させる。
- 高等学校教育部会で検討されている「高等学校学習到達度テスト(仮称)」(※)のような仕組みを創設し、それを就職試験や推薦入試、AO入試等にも活用する。
(※) 初等中等教育分科会高等学校部会の審議経過報告（平成25年1月）において提示された、高校における基礎的・基本的な知識・技能や思考力・表現力・判断力等の学習到達度を把握する希望参加型のテスト。（【参考1】参照）
- 高校段階での質保証の取組も踏まえ、大学入学者選抜においては、1点刻みの点数を競うのではなく、志願者の学力・意欲・適性・総合的能力等を多面的・総合的に評価する。
- 高校生の多様な学習やキャリアパスの形成に資するよう、検定・資格制度の導入・活用等、多様な大学入学者選抜の仕組みをつくる。
- 大学入試センター試験の在り方については、出題教科・科目が細分化(※※)していることなどの課題が指摘されており、見直しが必要である。
(※※現在のセンター試験の出題教科・科目は6教科29科目。センター試験の概要については【参考2】参照)

「初等中等教育分科会高等学校教育部会の審議の経過について」
(平成25年1月中央教育審議会初等中等教育分科会高等学校教育部会)より

2. 高校教育の質保証をめぐる現状と課題認識

(3) 課題認識

イ 高校教育の質保証に関する課題認識

(略)

- 一方、高校教育の多様化は、結果として、生徒が高等学校の学習で何をどの程度習得したのかが見えにくくもしている。(略) こうしたことが、現在、高校教育に対する信頼性のゆらぎにもつながっており、教育活動のプロセスに関し透明性の向上や説明責任を求める声とともに、高校教育の質保証に対する要請が高まる要因となっている。

4. 高校教育の質保証に向けた評価の仕組みについての基本的方向

(2) 基礎的・基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力等の評価

- ◎ 基礎的・基本的な知識・技能や、課題解決に必要な思考力・判断力・表現力等については、その到達度を把握する希望参加型のテスト(「高等学校学習到達度テスト(仮称)」)を全国規模で行う仕組みを設け、各学校・生徒の希望に応じて活用できるようにするとともに、教科・科目の特性を踏まえつつ、技能検定の活用等を促進し、客観的な把握に基づく評価の充実を図る。

ウ 新たなテストの仕組みの検討

(略)

- なお、生徒の学習意欲の向上という点では、生徒が、そのテストの成績により、例えば就職やAO・推薦入試の場面などの対外的な場面において、自らの学力を証明できることとなれば、当該テストは、生徒の学習意欲を一層喚起するものとなると考えられる。

【目的】

大学入学志願者の高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を判定することを主たる目的として、大学が共同して実施。

【平成25年度大学入試センター試験】

1. 試験期日

- ・本 試 験：平成25年1月19日（土）
20日（日）
- ・追（再）試験：平成25年1月26日（土）
27日（日）

3. 志願者数、利用大学数等

- ・志願者数：573, 344人
[対前年度+17, 807人]
- ・試験場数：707会場
[対前年度▲2会場]
- ・利用大学数：683大学
[対前年度+9大学]

157短期大学

[対前年度▲4短期大学]

(国公私別)

国立	82大学	[100%]
公立	81大学	[100%]
私立	520大学	[90%]
公立	15短期大学	[83%]
私立	142短期大学	[43%]

【時間割】

※出題教科科目数 6教科29科目(参考:第1回(平成2年) 5教科18科目)

試験日	試験教科・科目	試験時間
第1日	地理歴史：「世界史A」「世界史B」 ：「日本史A」「日本史B」 ：「地理A」「地理B」	2科目選択 9:30～11:40 1科目選択 10:40～11:40
	公民：「現代社会」「倫理」 ：「政治・経済」 ：『倫理, 政治・経済』	
	国語：『国語』	13:00～14:20
	外国語：『英語』『ドイツ語』 ：『フランス語』『中国語』 ：『韓国語』	【筆記】 15:10～16:30 【リスニング】 『英語』のみ 17:10～18:10
第2日	理科：「理科総合A」 ：「理科総合B」 ：「物理I」「化学I」 ：「生物I」「地学I」	2科目選択 9:30～11:40 1科目選択 10:40～11:40
	数学①：「数学I」『数学I・数学A』	13:00～14:00
	数学②：「数学II」『数学II・数学B』 ：「工業数理基礎」 ：『簿記・会計』 ：『情報関係基礎』	14:50～15:50